

2. 「町民がオーナー、町長はマネージャー」との認識に立ち、公平公正で、町民と共に歩む、町民本位の舵取りに徹します。

私は、この選挙戦で安平町の各地域に足を運び、いろいろな方々とお会いして地域の要望や課題、ご意見等をお聞きして参りました。

そうした中から、町民のみなさんが描いている合併後の安平町の姿や将来像、役場のあり方などについて多くのことを学び、このまちを支えてくれている多くの町民のみなさんがいるということを決して忘れてはならないと、気持ちを新たにしましたところであります。

私は、こうした地域に根ざした人たちがいてこそ、このまちが存在しているということを念頭に置きながら、町民はオーナーであり、町長はマネージャーであるとの認識を常に持ち、町民の目線に立った、町民の声が直接行政に反映される、民意に沿った開かれた町政と、どちらか一方に偏ることのない、公平で公正な、町民から信頼される、清潔で町民本位の町の舵取り役として町政運営に当たっていく所存でございます。

3. 安平町のそれぞれの地域が、その特性や特色を活かし、均衡ある発展がなされるように全体を見据えた町政運営を行います。

安平町には、それぞれの地域に潜在的な能力や資源、個性に溢れた活動を行っている人材など、多くの宝物があると思います。

その背景には、それぞれの立場で地域を支えている町民のみなさんはもちろんのこと、新千歳国際空港や重要港湾である苫小牧港、国家的プロジェクトである苫小牧東部開発地域、道央と道東を結ぶ鉄道や高速道路を始めとする主要道路網、国産チーズの発祥の地、町内にある工業団地や住宅団地、全国有数の軽種馬産地など挙げればきり



がないほどたくさんあります。

私は、これらの潜在的な能力や資源などを最大限引き出し、地域の特性や特色を活かしながら、安平町全体をひとつのステージとして捉え、それぞれが点ではなく、線として結ばれ、さらに地域に拡大し、まち全体が活力に満ちた均衡ある発展につなげていくため、全体を見据えた町政運営を行っていきます。

当面する重要課題

1. 「第1次安平町総合計画」の策定

安平町は、昔安平村というひとつの自治体であったとはいえ、54年間の隙間を短期間に埋めることは、そう容易なものではなく、まずお互いを良く知り合い、認め合い、譲り合いながら融和を図っていくことが重要であり、それが大切であると考えます。

そのためには、新しいまちづくりの指針となる『第1次安平町総合計画』が、町民の相互理解のもと策定される必要があると思います。

しかし、この合併という、今までに体験したことのない状況下にあっては、なるべく早い機会に計画を策定し、住民の一体感の醸成に努めていかなければならないものと考えます。

私は、今回の選挙戦において住民の皆さまに対し、「マニフェストで示す安平町への夢と希望」と題した、安平町の新しいまちづくりに対する公約を掲げ当選させていただきましたが、その選挙公約との整合性を図ることはもちろんのこと、責任ある立場で合併を進めてきた者として策定した「新町まちづくり計画」を基本に計画の策定を行っていきます。